

Z会主催「英語語彙指導法研究会」@名古屋会場 実施レポート

開催日時	2012年8月26日(日) 13:30-17:40
会場	TKP 名古屋ビジネスセンター 8階大会議室A

▼当日のプログラム

14:00～14:05 開会挨拶

14:05～15:05 講演①：麗澤大学外国語学部教授 望月 正道 先生

15:15～16:15 講演②：Z会出版「速読英単語」シリーズ執筆者 風早 寛 先生

16:25～16:45 指導実践例紹介①：石川県 星稜高等学校教諭 岡本 正樹 先生

16:45～17:05 指導実践例紹介②：愛知県立岡崎北高等学校教諭 酒井 得郎 先生

17:05～17:10 閉会挨拶

※参加者人数：61名

講演① 望月 正道 先生

テーマ：「第二言語習得研究に基づく英語語彙の効果的な指導法」

- ・ 語彙習得は単語に出会うたびに、発音・綴り・意味・多義性・同義語・コロケーションなどが少しずつ蓄積されていく。→ まずは発音と意味の結びつきを習得することが大切
 - ・ 語彙力とは、「たくさんの単語の意味を知っている(=サイズ)」・「1つの単語について用法などを詳しく知っている(単語知識の深さ)」・「ある単語を素早く認知・使用できる(=アクセス速度)」という3つの側面から捉える必要がある。
 - ・ 未知語の導入段階では、リストで語義を覚えさせることが効果的。→ 定着・発展学習の段階では、文脈で確認・定着させることが有効。
 - ・ 語彙リストで覚えたグループと、語彙と例文とで文脈をもとに覚えたグループとで、10種類の単語テストを行ったところ、有意差はなかった。→ (リストで覚えたグループは)母語を第二言語習得に利用しているから。→ 語彙学習において、母語の利用は理に適っている。
- 単語学習の初期段階では、意味の似た語ばかりをまとめて覚えるのと、無関係の語ばかりで覚えるのとでは、後者の方がよく覚えた。→ 原因は、意味的干渉が記憶に影響するためであると考えられる。通例、新しい知識を既知の情報と結びつけて大まかに語の意味を分類するが、例えば Tuesday, Thursday など、どちらも「曜日」という大枠が同じなので、精緻化する際に混乱してしまう。→ 語彙をバラバラに覚えて、最後に意味の似たネットワークとして単語をまとめることが望ましい。
- ・ 未知語の意味を文脈から推測できる条件は、100語中98語以上が既知語であること。
 - ・ 1つの語を覚えるには8～10回文脈の中で出会う必要がある。
 - ・ 単語を訳語と同時に提示する際は、一気にではなく、何度も間隔を空けて提示するのが望ましい(60秒連続で提示するのではなく、10秒ずつを6回に区切って提示するのが効果的)。
 - ・ 生徒が語彙習得を楽しむためには、目標を提示し、目標の達成度を知らせること、「すぐに覚えられないのが普通」だと安心感を与えることが大切。
 - ・ 多義語こそ、文脈から意味を推測させた上で辞書をひかせ、文脈に合う訳を選ばせる練習が効果的。

講演② 風早 寛 先生

テーマ：「英単語集の作成プロセスをもとに考える、単語集の役割とその活用法」

- ・ 難関大の英語入試の特徴：英文量が多く、単語・熟語・構文のレベルが高いにもかかわらず制限時間が短い。→リーディングの授業で対策をしているが、単語集で長文の対策と単語

語の習得を同時にできないか？ → 「速読英単語」を作ろうと考えた理由。

- ・ 「速読英単語」での学習の流れ：興味深い英文を何度も音読、CD で聴く→英文のイメージの中で英単語が長期記憶として定着→強力に記憶された英単語をもとに、新出関連語や派生語が結びつく
- ・ 同じ英文を繰り返し読むことで得られる背景知識も長文理解のためには大切。
- ・ 毎日 200 語程度の英文を音読する必要性 → 長文への苦手意識が払拭できる。
- ・ 導入段階では無理して必ずしも英文を読むところから始めなくてもよい（＝リストを使用しても構わない）が、入試に耐えられる実戦的知識というレベルで長期記憶として定着させるためには、最終的に文脈で単語を覚える&推測する訓練が不可欠。
- ・ Z会の書籍を執筆するにあたっては、単語・イディオム・英文法問題まで徹底的に頻度分析を行い、書籍に反映している。→ 近年は、難語の推測を問う問題がセンター・国公立の個別試験でも増えている。確固たる分析手法に基づいた速単シリーズの内容をマスターしておけば、低頻度の語を労力をかけて覚えなくても、推測読みで対応が可能。
- ・ それでも未知語が出てきたときの処理方法：飛ばし読み・直前直後の説明を読む・そっくりな文章構造がないか・同じ語が他の英文で使われていないか、などの手がかりを活用することで推測ができる。

指導実践例紹介① 岡本 正樹 先生

テーマ：「採用単語集の活用を促す学校オリジナル教材の利用法」

- ・ 生徒が単語を覚えられない 3 つの理由：①一つ一つの単語を発音できないため（音と意味が結びついていない）、②教える側が、一つの単語に多くの語義・用法を一度に覚えさせようとするため、③単語帳で暗記しても、「英文が読めるようになった」という実感が湧かず、喜びが感じられないため。
- ・ この 3 つの理由を解消してくれる単語集として、「速読英単語」と出会う。単語を文脈の中で確認させることが一番効果的と考え、「速読英単語」を採用。
- ・ 「速読英単語」を授業内で有効活用するために、3 つのオリジナル教材を作成した。まずは単語自体の記憶に集中させるため、「速読英単語必修編」の単語と第一語義・発音記号のみを取り出した「秒速英単語」という学校オリジナルの単語帳を生徒に配布。本文はフレーズごとに区切り、「サイトトランスレーション練習帳」としてプリント配布。さらに、授業中プロジェクターでフラッシュカードのように投影できるよう、「コンピューター版 速読英単語」を、EXCEL の Visual Basic Program を活用して作成した。
- ・ 「秒速英単語」は、時間を計って音読する。1 ページあたりの 20 語を、15 秒以内で読めれば発音学習は OK。
- ・ サイトトランスレーションでは、時間を計りながら、英語を見て日本語を言う・日本語を見て英語を言うというトレーニングを繰り返す。
→ スピード感が大切。
- ・ 「コンピューター版 速読英単語」では、フラッシュカードの表示スピードを徐々に上げていくことで、生徒のモチベーションを高める工夫を行った。

指導実践例紹介②：酒井 得郎 先生

テーマ：「採用単語集の同一範囲を週 3 回反復学習させる小テストの活用法」

- ・ 電子辞書の使用については、積極肯定派である。音と単語の意味を結びつけるためのツールとして、電子辞書の発音機能は効果的。
- ・ 3 パターンくらい手を変え、品を変え、繰り返し単語に触れる機会を設けてやることの方が効ではないかと考えるようになった。
- ・ 覚える仕掛け：忘れてもいいから多くの英単語を見る→文章の形で覚え、反復練習→まと

まった英文と共に記憶させる。

・ 覚える 3 ステップ

① 英単語の代表的な意味を 1 つ：リストを提示→ランダムに結びつけ

② 英単語の短文の中での意味

③ 英単語の文脈での意味

・ ペアワークの実演

< 単語レベルでの記憶を促進するために >

① 英語－日本語が一对一对応しているリストを配布し、リストの英単語をコーラスリーディング。

② 30 秒の制限時間内に、ペアでリストの単語を 5 回音読。5 回の音読が完了したペアは挙手で知らせる。

③ リストをランダムに並べ替え、英語部分を空欄にしたハンドアウトを配布。各自で空欄部分に英単語を入れさせる。

④ 30 秒の制限時間内にペアで答え合わせ。ペアワークで確認させるとゲーム性が出てきて、教室の雰囲気よくなる。

⑤ 全体での答え合わせをかねて、コーラスリーディング。

⇒ 10 分程度の時間で、リスト内の単語に 10 回近く触れることができる。

⇒ 新指導要領実施後に、アクティビティー重視の授業を行うのであれば、実行しやすく、効果的な活動の一つになる。

< 文脈レベルでの理解を促進するために >

① 「速読英単語」の英文中から、リストで学習させた英単語部分を空欄にしたディクテーションシートを配布。CD を流してディクテーションさせる。

⇒ 「速読英単語」の CD はかなりのスピードで録音されている。この活動を続けておけば、センターリスニングにも十分対応できる。

② 30 秒の制限時間内にペアで答え合わせ。ペアの双方ができていない場合は、テキストの英文で確認させる。

③ リストで学習させた “indeed 「実際に」” という単語を取り上げ、「抽象論」⇒「具体例」という情報の流れを意識させた上で、英文中のこの流れを含む箇所を音読練習。

⇒ 単語の定着のためには、機械的な記憶作業だけでなく、学んだ単語がいかに使われるのか、内容にせまる読み込みが必要。

・ 単語テストの効果を高める工夫

① ペアワークを用いて単語の発音・アクセントを確認し、生徒に「できる感」を与える。

② アクティビティーには時間制限を設け、緊迫感がある状態を保つ。⇒ キッチンタイマーは授業の必需品！

③ 150～200 語の英文全体ではなく、キーとなるパートを、何度も音読させて完全に暗唱させる。